



| おにクルについて

文化・子育て複合施設おにクルは、昨年11月26日オープンしました。12月27日までで20万人の来館があったとのこと。なお、第2、4月曜日（祝日と重なる場合は翌日）と年末年始が休館日となっています。

| 能登半島地震の被災地への本市の支援について（1月12日時点）

1月1日（月）本市消防本部から緊急消防援助隊大阪府隊として、タンク車1台隊員5名出動、1月3日に輪島市消防署に到着、4日より活動開始し、12日まで4次にわたって派遣されています。また、1月12日から1月16日まで、被災建築物応急危険度判定のため技術職員2名も派遣されました。

義援金に関してはこちらの市ホームページをご参照ください。また、義援金を装った詐欺にご注意ください。公的な機関・団体は、義援金を募る電話や訪問はしません。なお、茨木市役所内やおにクルに募金箱が設置されています。



| 市民の皆様からいただいた主な問合せ・ご要望（2023年10月～12月）

（個別具体的な表現は避け、掲載の了解を得たものに限る）

- ・文化・子育て複合施設「おにクル」について
- ・フリースクールについて
- ・ゴミ出しについて
- ・空き家について
- ・歩道の舗装について
- ・府道茨木寝屋川線について

市政に対するご意見やお困りごとがありましたらお気軽にお問合せください！

※お問い合わせはこちらへ
TEL：070-5265-4371
E-mail：info@s-yonekawa.net

【プロフィール】

よねかわ しょうり
米川 勝利

無所属 茨木市議会議員



詳しいプロフィールはホームページへ
<http://s-yonekawa.net/>

1986年、茨木生まれ
めぐみ幼稚園、大池小学校、東中学校、
茨木高校、同志社大学政策学部出身
同志社大学大学院
総合政策科学研究科博士前期課程修了

2013年1月、茨木市議会議員選挙初当選
2014年9月、同大学院博士後期課程退学
2017年1月、2期目当選
2021年1月、3期目当選
防災士、久敬会理事、茨木BBS会顧問、2児の父

無所属 茨木市議会議員

よねかわ

しょうり

米川 勝利

の議会ニュース

つながりだより

Vol. **41**
2024.01.25



- ・本会議質問① 要介護認定の迅速化を
- ・本会議質問② 高齢者のゴミ出し支援を
- ・地震への備えを

12月議会報告

令和5年12月議会は、12月6日に開会し、19日に閉会しました。約34億7千万円の補正予算（第4号）の主な内容は、**非課税世帯への価格高騰緊急支援給付金、プレミアム付き商品券第2弾、小中学校のトイレ洋式化に向けた設計委託、就農者育成施設の整備**などで、全会一致で可決されました。

| 本会議での米川の質問①

→要介護認定の迅速化について

市民からの問い合わせを踏まえ、本市の要介護認定にかかっている日数を質問したところ、**法定30日のところ、現状では、30日から1週間程度を超える期間を要する状況**とのことでした（※1）。要介護認定の申請件数が年1万件を超えていることから、認定調査や主治医意見書の取り寄せなどに時間を要しているようです。



今後、増加傾向にある要介護認定申請に対しては、「認定調査員の要件となる研修の機会を増やし、**新たな認定調査員の確保**に努める」「他市の効果的な方策を把握しながら検討したい」「**認定調査業務の見直しを進めていきたい**」との答弁がありました。

最後に米川から、吹田市のように認定調査の委託をすることにより、1日でも早い認定で市民福祉の向上、市役所の業務改善（事務負担の軽減）を要望しました。

※1 30日を超える場合は個別に通知をすることになっています。

| 本会議での米川の質問②

→高齢者のゴミ出し支援について

ゴミ出しが困難な高齢の方々から、**ヘルパーさんに来てもらう時間と、ごみ収集の曜日や時間が合わない**という声を聞いています。不安なくごみを出せることは生活の質にかかわることであり、介護サービスでの支援に限界があるならば、本市が実施しているスマイル収集（※2）の利用要件を拡充すべきではないかと問いました。



産業環境部長からは「スマイル収集は、特に介護の必要性が高い方に対して、通常収集を補完するために実施しており、要件の緩和は考えていないが、引き続き関係部局で連携を図る」との答弁がありました。

※2 ゴミ出しが困難な高齢者や障害者等を対象に、要介護3以上等の要件で戸別訪問による玄関先収集をするもの。

| 本会議での米川の質問③

→大阪・関西万博への子ども複数回無料招待、大阪府の予算で実施されないのか？

大阪府は、子どもの無料招待を表明して1回目は府の予算で実施することになっているようですが、2回目については、市町村が全額負担をしてほしいとの話が府から来ていました。万博の是非、意義とは関係なく、そもそも府自らが責任を持って実施すべきことであり、何の補助もなく府内の市町村に負担してもらおうという考えが問題だと考えています。

答弁としては、「現時点で、大阪府からの呼びかけに応じるかどうかは未定だが、大阪・関西万博が市民の皆様にとってより良いものとなるために、**どのような取り組みが効果的であるのかを、本市として主体的に検討していく**」とのことでした。



2回目の無料招待、もし全額茨木市で負担すると…
→約5,000万円

何故、府が負担しないのか？

■ 地震への備え、できていますか？

●地震！そのとき、まず何をする？

→いざというときの行動について、防災ハンドブックに掲載されています。



●自分の住まいの危険度を知ろう。

→市内の「ゆれやすさマップ」「危険度マップ」を知ることができます。



●ライフラインが止まることを想定して、食料や災害用品の備えを

→阪神淡路大震災では、停電6日、ガス停止84日、水道停止90日でした。2018年の大阪北部地震においては、ガスが約64,000件供給停止しました。

●家具の配置換え & 転倒防止を



飲料水
3リットル×7日分×家族の人数
ひとりあたり
1日3リットルの飲料水が必要になります

食料
3食×7日分×家族の人数
普段食べているものでOK!
レトルト食品、缶詰、びん詰めの保存の利くものを定期的に買って交換

ライフラインの停止に備えよう!

停電
懐中電灯、乾電池、ラジオ

断水
ウェットティッシュ、非常用トイレ

ガス停止
卓上コンロ、カセットガスボンベ

※茨木市「防災情報の収集方法と家庭の備え」チラシより抜粋